

2 公共サインに係る課題とその対応の方向

課題把握のために実施した意識調査および実態調査の結果をもとに、本市における公共サインに係る課題を整理するとともに、それらへの対応の基本的な考え方をとりまとめる。

2-1 茅ヶ崎市公共サインに係る課題

(1) 道しるべとしての利用に係る事項

1) 公共サインの道しるべとしての利用

●公共施設への来訪に際しての、公共サインの道しるべとしての利用度は、「利用する」、「ときどき利用する」を合わせて4割強

●地域資源来訪者の利用実態については、実際の公共サインの整備状況にも左右されるためばらつきはあるが、「利用した」とする人は、1割から3割強

市民郵送調査および地域資源来訪者調査の結果をみると、公共施設、地域資源への来訪において、公共サインを目的地までの道しるべとして利用する人の割合は、4割程度である。

公共サインの整備自体が十分に進んでいないことに加えて、公共施設については、日常的に利用する施設であり、公共サインが無くても行けることが理由とも考えられる。

各項目	人数 (人)	割合 (%)	
利用する	83	14.5	}40.1%
ときどき利用する	146	25.6	
どちらとも言えない	49	8.6	}49.2%
あまり利用しない	170	29.8	
利用しない	111	19.4	
無回答	12	2.1	
合計	571	100.0	

図表 2-63 公共施設への道程での公共サインの利用状況

各項目	開高健記念館		茅ヶ崎市美術館		民俗資料館		サザンビーチ	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
利用した	26	32.9	20	35.1	7	25.0	10	11.8
利用しなかった	47	59.5	32	56.1	21	75.0	72	84.7
無回答	6	7.6	5	8.8	0	0.0	3	3.5
合計	79	100.0	57	100.0	28	100.0	85	100.0

図表 2-64 当該施設への道程での案内・誘導サインの利用状況

2) 道しるべとして利用するもの

- 4割以上の方が道しるべとして、「通りの名称」、「交差点の名称」を利用
- 住居表示街区案内地図を道しるべとして利用する人も約2割

- 地域資源別の傾向については、実際の整備状況の差などに左右され、施設ごとのばらつきが大きい
- 道しるべとして利用するものについては、「サザンビーチ:概ねの方角・方向」、「開高健記念館:通りの名称」、「茅ヶ崎市美術館:途中にあったサイン」など、施設ごとの特徴が顕著

市民郵送調査の結果をみると、道しるべとして利用するものについては、「通りの名称」、「交差点の名称」が4割以上と多い。また、「住居表示街区案内地図」を道しるべとしての利用する人も約2割見られる。

地域資源来訪者の結果をみると、資源ごとの実際の整備状況の差などに左右され、施設ごとのばらつきが大きい。

各項目	人数 (人)	割合 (%)
通りの名称	297	52.0
交差点の名称	290	50.8
交差点角の建物	150	26.3
通り沿いの建物	182	31.9
高い建物	25	4.4
公共施設(公園等)	171	29.9
神社・仏閣	52	9.1
人通り	12	2.1
住居表示街区案内地図・広域避難場所案内図	108	18.9
その他	49	8.6

図表 2-65 公共施設への道程での公共サイン以外の道しるべ

各項目	開高健記念館 サンプル数:79		茅ヶ崎市美術館 サンプル数:57		民俗資料館 サンプル数:28		サザンビーチ サンプル数:85	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
携帯していた地図	20	25.3	5	8.8	2	7.1	6	7.1
途中にあった案内・誘導サイン	14	17.7	16	28.1	4	14.3	3	3.5
途中にあった住宅表示板や街区案内地図	8	10.1	1	1.8	2	7.1	1	1.2
通りの名称	21	26.6	2	3.5	0	0.0	6	7.1
交差点の名称	7	8.9	1	1.8	0	0.0	6	7.1
交差点角の建物	0	0.0	4	7.0	0	0.0	4	4.7
通り沿いの建物	0	0.0	4	7.0	1	3.6	1	1.2
高い建物	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
公共施設(公園等)	1	1.3	6	10.5	1	3.6	0	0.0
神社・仏閣	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
人通り・雰囲気	1	1.3	2	3.5	1	3.6	6	7.1
概ねの方角・方向	4	5.1	7	12.3	1	3.6	14	16.5
その他	15	19.0	11	19.3	9	32.1	18	21.2

図表 2-66 当該施設への道程での公共サイン以外の道しるべ

(2) 公共サインの分かりやすさに係る事項

1) 公共サイン全般

●公共サイン全般に関しては、「特徴がなく気づきにくい」、「設置数が少なく情報不足」、「分かりにくい(文字の大きさ、絵文字、色使い、掲載情報の少なさ、デザインの不統一)」が課題

市民郵送調査の結果をみると、公共サインの設置場所、公共サインの表示内容について、「看板自体に特徴がなく気づきにくい」、「看板の設置数が少なく情報不足である」、「文字が小さく分かりにくい」といった課題が多く挙げられている。

特に、60歳以上の人は「文字が小さくて分かりにくい」と感じている人が多い。

各項目	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
看板の設置場所が悪く、情報が見えにくい	83	14.5	35	19.1
看板の配置数が少なく、情報不足である	152	26.6	62	33.9
看板の設置数が多く、分かりにくい	8	1.4	4	2.2
看板自体に特徴がなく、気づきにくい	228	39.9	72	39.3
看板の設置場所が不適切で、せつかくの情報が活かされていない	55	9.6	27	14.8
特に改善すべき点はない	142	24.9	41	22.4
その他	41	7.2	8	4.4

図表 2-67 市内公共サインの設置に関する課題

60歳以上
(n=183)

各項目	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
文字が小さくて分かりにくい	150	26.3	69	37.7
看板に絵文字の表示がなく、分かりにくい	63	11.0	26	14.2
表示されている絵文字自体が分かりにくい	36	6.3	13	7.1
表示されている道路や施設の情報が少なくて役にたたない	112	19.6	45	24.6
表示されている道路や施設の情報が多すぎて分かりにくい	11	1.9	3	1.6
表示されている色のコントラストが悪く、分かりにくい	56	9.8	18	9.8
サインに統一感がなく分かりにくい	60	10.5	20	10.9
特に改善すべき点はない	158	27.7	37	20.2
その他	73	12.8	13	7.1

図表 2-68 市内公共サインの表示に関する課題

60歳以上
(n=183)

これらの課題に対応すると考えられる具体的な公共サインの例を以降に示す。

●公共サインの整備不足

案内サイン(地図付き)は5箇所(茅ヶ崎駅周辺と香川駅前)に設置されている。案内サインを補完する集約型の誘導サインは茅ヶ崎駅北口デッキ上に数基整備されているのみ。



■茅ヶ崎駅南口の総合案内図



■茅ヶ崎駅北口デッキ上の集約型案内サイン

●「文字が小さくて分かりにくい」、「看板に絵文字の表示がなく分かりにくい」に該当する例



●「看板自体に特徴がなく、気づきにくい」に該当する例



● 「サインに統一感がなく分かりにくい」に該当する例



同一施設への誘導サインであるがデザインが統一されていない

● 「看板の設置場所が不適切で、せっかくの情報が活かされていない」、「看板の設置場所が悪く、情報が見えにくい」に該当する例



動線からやや外れる位置にあるとともにプランターにより下部の情報が見えにくくなっている



カーブミラーの影になり分かりにくい

2) 個別地域資源を対象とした課題

●公共サイン全般と同様に、「特徴がなく気づきにくい」、「設置数が少なく情報不足」、「分かりにくい(文字の大きさ、絵文字、色使い、掲載情報の少なさ、デザインの不統一)」が課題

開高健記念館、茅ヶ崎市美術館、民俗資料館、サザンビーチの個別地域資源を対象とした地域資源来訪者調査の結果をみると、それぞれの施設でばらつきはあるものの、公共サイン全般と同様に、「(看板自体に)特徴がなく気づきにくい」、「(看板の)設置数が少なく、情報不足である」、「文字が小さくて分かりにくい」といった課題が挙げられている。

各項目	開高健記念館 サンプル数:79		茅ヶ崎市美術館 サンプル数:57		民俗資料館 サンプル数:28		サザンビーチ サンプル数:85	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
設置場所が悪く、情報が見えにくい	9	11.4	5	8.8	5	17.9	7	8.2
配置数が少なく、情報不足である	16	20.3	11	19.3	8	28.6	17	20.0
設置数が多く、分かりにくい	1	1.3	2	3.5	0	0.0	1	1.2
特徴がなく、気づきにくい	10	12.7	12	21.1	5	17.9	18	21.2
設置場所が不適切で折角の情報が活かされていない	2	2.5	1	1.8	2	7.1	0	0.0
文字が小さくて分かりにくい	6	7.6	6	10.5	2	7.1	6	7.1
絵文字による表示がなく分かりにくい	1	1.3	2	3.5	0	0.0	3	3.5
絵文字自体が分かりにくい	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
道路や施設の情報が少なくて役に立たない	2	2.5	2	3.5	0	0.0	4	4.7
道路や施設の情報が多すぎて分かりにくい	1	1.3	1	1.8	0	0.0	0	0.0
色のコントラストが悪く、分かりにくい	1	1.3	3	5.3	1	3.6	2	2.4
サインに統一感がなく分かりにくい	1	1.3	1	1.8	2	7.1	6	7.1
特に改善点はない	22	27.8	18	31.6	8	28.6	41	48.2
その他	10	12.7	8	14.0	1	3.6	5	5.9

図表2-69 当該施設に関する案内・誘導サインの問題点(施設別)

各項目	開高健記念館 サンプル数:79		茅ヶ崎市美術館 サンプル数:57		民俗資料館 サンプル数:28		サザンビーチ サンプル数:85	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
設置場所が悪く、情報が見えにくい	6	7.6	2	3.5	3	10.7	7	8.2
配置数が少なく、情報不足である	10	12.7	6	10.5	4	14.3	10	11.8
特徴がなく、気づきにくい	7	8.9	13	22.8	3	10.7	17	20.0
設置場所が不適切で折角の情報が活かされていない	4	5.1	1	1.8	1	3.6	3	3.5
文字が小さくて分かりにくい	7	8.9	4	7.0	3	10.7	7	8.2
絵や写真が分かりにくい	2	2.5	1	1.8	1	3.6	2	2.4
内容が難しく分かりにくい	0	0.0	0	0.0	2	7.1	4	4.7
情報が少なくて役に立たない	1	1.3	0	0.0	0	0.0	2	2.4
色のコントラストが悪く、分かりにくい	1	1.3	2	3.5	2	7.1	2	2.4
特に改善点はない	32	40.5	23	40.4	10	35.7	47	55.3
その他	4	5.1	2	3.5	0	0.0	0	0.0

図表2-70 当該施設の解説サインの問題点(施設別)

これらの課題に対応すると考えられる、具体の公共サインの例を以降に示す。

- 「看板の設置数が少なく、情報不足である」に該当する例



香川駅前に民俗資料館への散策ルート案内はあるが、ルート途中の誘導は少ない

- 「文字が小さくて分かりにくい」に該当する例



(案内・誘導サイン)



(解説サイン)

- 「看板自体に特徴がなく、気づきにくい」に該当する例



(解説サイン)

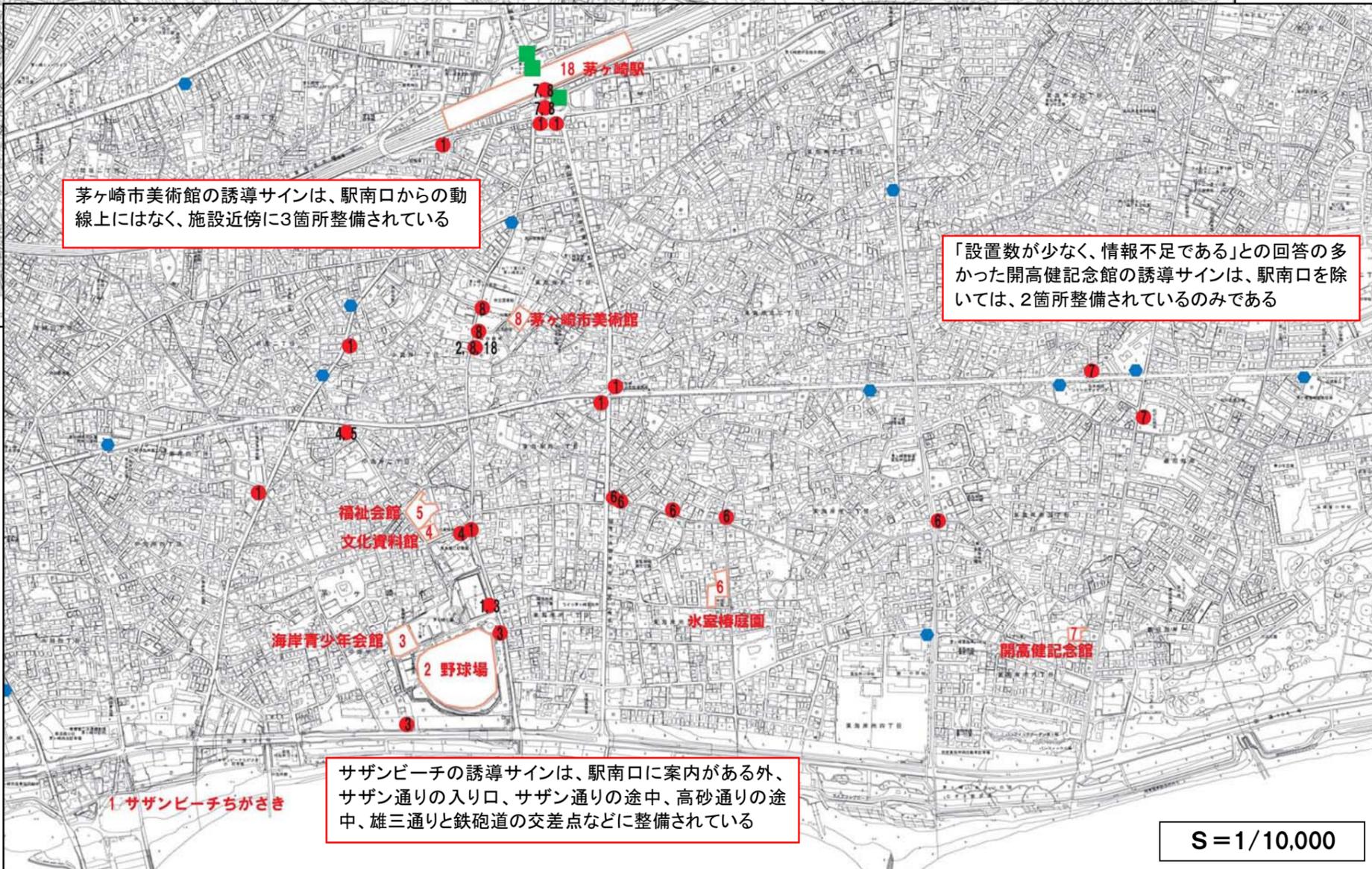


(案内・誘導サイン)

- 「看板の設置場所が悪く、情報が見えにくい」に該当する例



改札を出て正面にあるが、高い位置にあり他の広告類にまぎれてわかりにくい



市民郵送調査、地域資源来訪者調査において、「看板の設置数が少なく、情報不足」との回答が多かった公共サインについて、その設置状況を示したものが右図である。

- 総合案内サイン
- 誘導サイン
- 住居表示案内看板

※誘導サイン上にある数字は誘導先の施設の番号を示す。

図表 2-71 対象地域資源に対応する総合案内サイン・誘導サイン・住居表示案内地図の設置位置図

(3) 地域資源の回遊促進に係る事項

1) 市民の地域資源巡りの実態

●市民の地域資源巡りの実態は、「月に1回程度」以上という人の割合は、3割弱

市民郵送調査の結果をみると、徒歩、自転車での市内の地域資源巡りの実態は月に1回程度以上という人が徒歩の場合で27.3%、自転車の場合で25.1%である。

【徒歩】

各項目	人数 (人)	割合 (%)
月に4回以上	17	3.0
月に2~3回	28	4.9
月に1回程度	111	19.4
ほとんどない	257	45.0
全くない	153	26.8
無回答	5	0.9
合計	571	100.0

【自転車】

各項目	人数 (人)	割合 (%)
月に4回以上	13	2.3
月に2~3回	34	6.0
月に1回程度	96	16.8
ほとんどない	215	37.7
全くない	205	35.9
無回答	8	1.4
合計	571	100.0

図表2-72 市内地域資源巡りの頻度（徒歩／自転車）

2) 個別地域資源における回遊性の実態

●同時回遊性が2割以上のパターンは、「開高健記念館⇄サザンビーチ」、「民俗資料館⇄浄見寺」、「民俗資料館⇄茅ヶ崎里山公園」のみ

地域資源来訪者調査の結果をみると、同時回遊性は全体的に低く、「開高健記念館⇄サザンビーチ」「民俗資料館⇄浄見寺」「民俗資料館⇄茅ヶ崎里山公園」の組み合わせのみが、2割を超える程度である。

なお、今回の地域資源来訪者調査においては、サザンビーチでの調査がサザンビーチでイベントが開催される日時の夕方時の調査であった。そのため、サザンビーチ来訪者は、イベントのためだけに来訪している人の割合がかなり多く、サザンビーチと他地域資源との同時回遊性が本来の実態よりもかなり低くなっていることが推察される。

各項目	開高健記念館 サンプル数:79		茅ヶ崎市美術館 サンプル数:57		民俗資料館 サンプル数:28		サザンビーチ サンプル数:85	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
氷室椿庭園	4	5.1	0	0.0	2	7.1	0	0.0
開高健記念館	3	3.8	0	0.0	2	7.1	0	0.0
県立茅ヶ崎里山公園	1	1.3	2	3.5	8	28.6	4	4.7
浄見寺	2	2.5	1	1.8	12	42.9	0	0.0
鶴嶺八幡宮	3	3.8	1	1.8	2	7.1	0	0.0
旧相模川橋脚	1	1.3	1	1.8	3	10.7	0	0.0
サザンビーチ	21	26.6	3	5.3	2	7.1	0	0.0
茅ヶ崎市美術館	5	6.3	3	5.3	1	3.6	2	2.4
高砂緑地	5	6.3	4	7.0	1	3.6	0	0.0
腰掛神社	0	0.0	0	0.0	3	10.7	0	0.0
民俗資料館(旧和田家)	2	2.5	0	0.0	1	3.6	0	0.0
市民の森	0	0.0	1	1.8	4	14.3	1	1.2
茅ヶ崎館	2	2.5	1	1.8	2	7.1	0	0.0
左富士	1	1.3	0	0.0	1	3.6	1	1.2
茅ヶ崎公園	1	1.3	2	3.5	5	17.9	3	3.5
団十郎山の碑	2	2.5	0	0.0	1	3.6	0	0.0
佐々木卯之助の碑	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
清水谷	0	0.0	0	0.0	4	14.3	0	0.0
文化資料館	2	2.5	2	3.5	2	7.1	1	1.2
その他	12	15.2	22	38.6	9	32.1	12	14.1

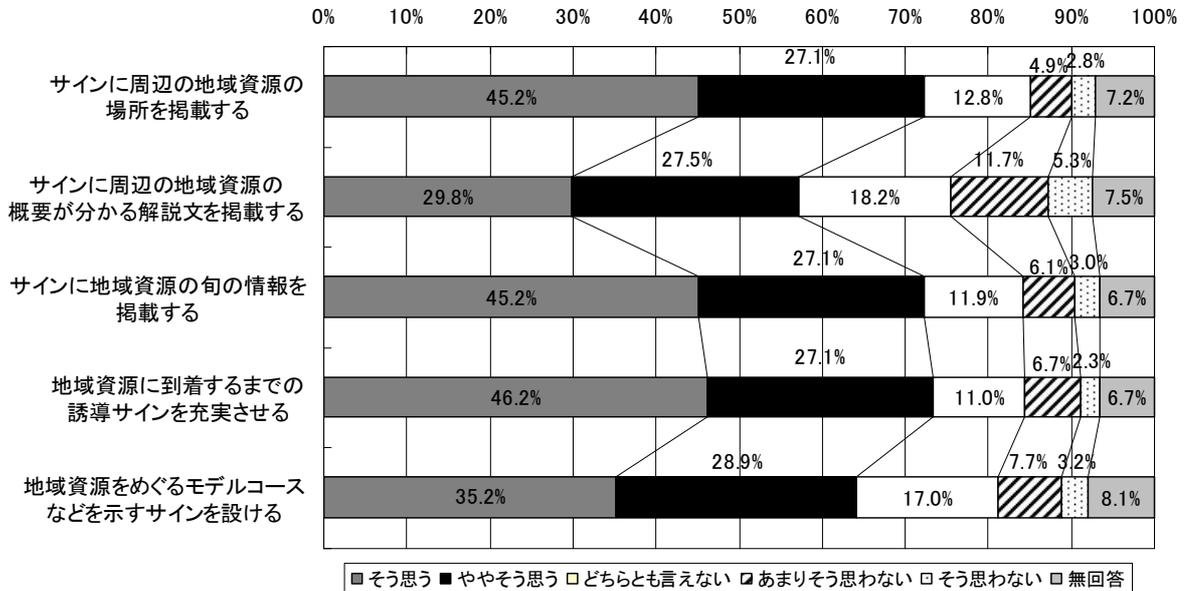
図表2-73 当日の他施設への来訪行動(施設別)

※本設問の回答結果をみると、地理的に同時回遊が困難と思われる地域資源間の同時回遊に対する回答も相当数見られる。これらの結果は、「本施設の来訪前もしくは、この後に立ち寄る施設」を、「過去に来訪したことのある施設」と勘違いした誤回答の結果と思われる。そのため、本設問の回答結果については、その取り扱いを慎重に考える必要がある。

3) 回遊性誘発のための方策に関する意向

●公共サイン自体に求められる地域資源巡りを誘発するための方策としては、「誘導サイン自体の充実」、「周辺の地域資源の場所の情報」、「地域資源の旬の情報」が、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた割合が7割以上

市民郵送調査の結果をみると、公共サイン自体に求められる情報の記載や工夫については、「地域資源に到着するまでの誘導サインを充実させる」、「サインに周辺の地域資源の場所を掲載する」、「サインに地域資源の旬の情報を掲載する」に対する意向が高い。

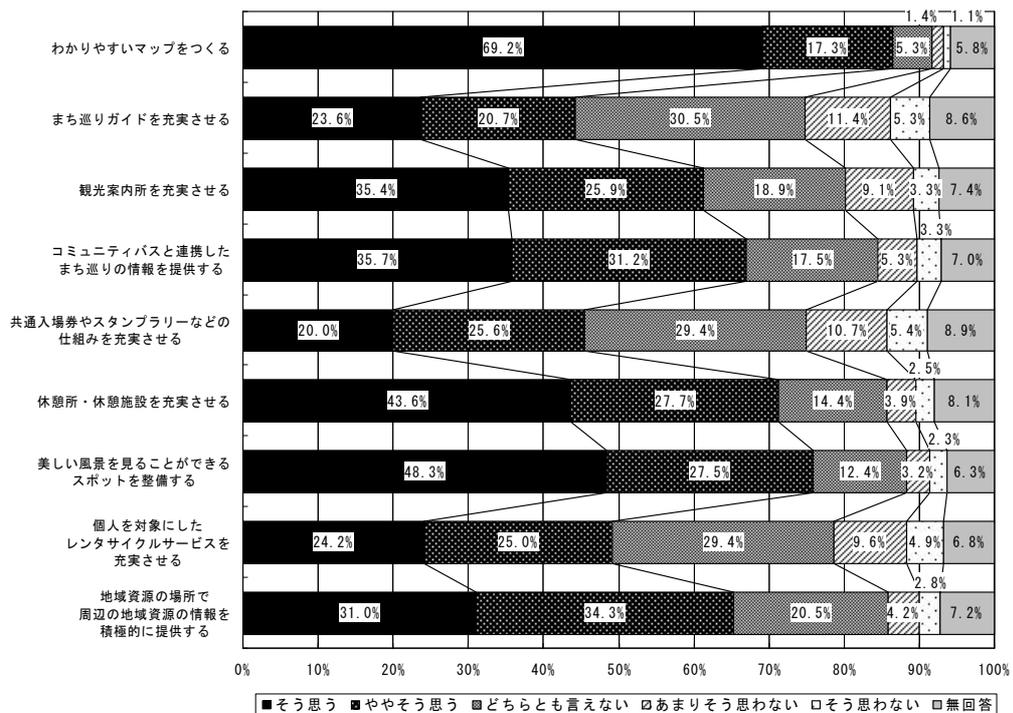


図表 2-74 公共サイン自体に求められる地域資源回遊誘発の方策

- 公共サインとの連携が求められる地域資源巡りを誘発するための方策としては、「マップとの連携」が、「そう思う」「ややそう思う」を合わせて8割以上
- 「美しい風景を見ることができるスポットの整備」、「休憩所の充実」のハード系の整備も、「そう思う」「ややそう思う」を合わせて7割を超えている
- 「コミュニティバスとの連携」、「観光案内所の充実」の割合も「そう思う」「ややそう思う」を合わせて6割強

一方、公共サインとの連携が求められる方策としては、「わかりやすいマップの作成」に対する意向がもっとも高い。

次いで、「美しい風景をみることができるスポットを整備する」、「休憩所・休憩施設の充実させる」といったハード系の整備に対する意向、「コミュニティバスと連携したまち巡りの情報を提供する」、「観光案内所を充実させる」といった順になっている。



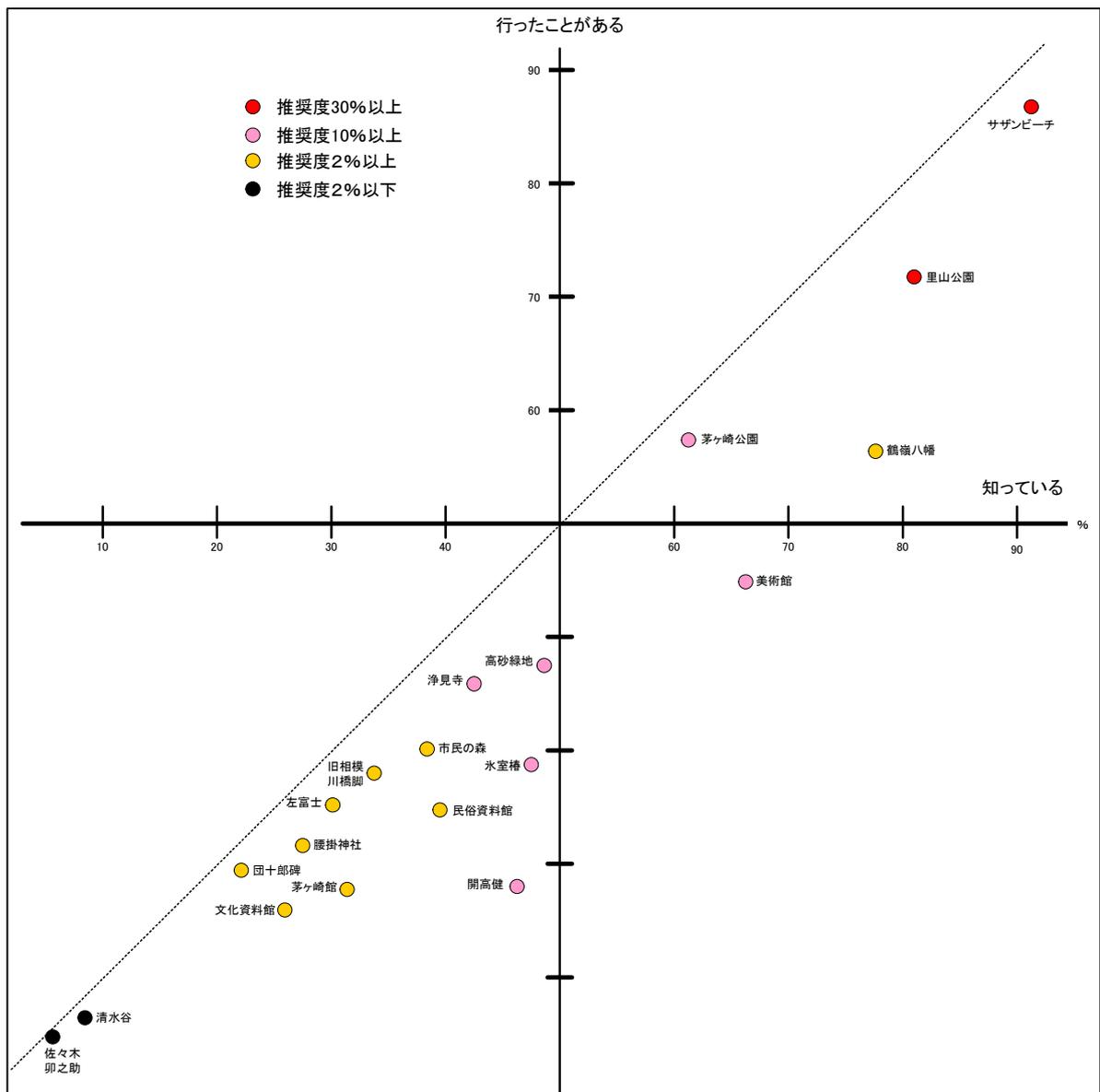
図表 2-75 公共サインとの連携が求められる地域資源回遊誘発の方策

4) 地域資源の認知度、来訪度、推奨度の関係

- 認知度が高いのは、サザンビーチ、茅ヶ崎里山公園、鶴嶺八幡宮、市美術館、茅ヶ崎公園 など
- 来訪度が高いのは、サザンビーチ、茅ヶ崎里山公園、鶴嶺八幡宮、茅ヶ崎公園、市美術館 など
- 推奨度が高いのは、サザンビーチ、茅ヶ崎里山公園、氷室椿庭園、浄見寺、高砂緑地 など

市民郵送調査の結果をみると、例示した19の地域資源について、サザンビーチ、茅ヶ崎里山公園、鶴嶺八幡宮、市美術館、茅ヶ崎公園の認知度が高い。一方、実際に行ったことがあるという来訪度が高いのは、サザンビーチ、茅ヶ崎里山公園、鶴嶺八幡宮、茅ヶ崎公園、茅ヶ崎市美術館となっている。

人に勧めたいという推奨度が高いのは、サザンビーチ、茅ヶ崎里山公園、氷室椿庭園、浄見寺、高砂緑地の順となっている。



図表 2-76 地域資源の認知度、来訪度、推奨度の関係

(4) 実態調査からのその他の課題

前項までにとりまとめた市民郵送調査および地域資源来訪者調査の結果と照らし合わせた公共サインに係る課題に加え、実態調査から抽出された個別的な課題について以降にとりまとめる。

- 地図のデフォルメが著しいため正しい情報の提供となっていない。(香川駅前の案内サイン)



- 設置場所や大きさなどに難があり、案内図の機能を果たしていない。(茅ヶ崎駅南口の各種資源の誘導サイン)



- 設置年度により通り名称の不統一など掲載情報の不統一が見られる。(住居表示街区案内図)



- 一つの施設への案内に様々なデザインの公共サインが混在している。(氷室椿庭園)



- 設置場所や大きさなどに難があり、視認性が低い。(浄見寺境内の旧三橋家の誘導サイン)



- 入口案内、施設名板、注意看板がバラバラに設置されている。(市民の森の誘導サイン、名称サイン、注意サイン)



- 浄見寺へのルート上に解説サインがあるが案内サインが不備のため活用されていない。(池端道祖神兼庚申塔の解説サイン)



- 愛称道路名称の表記が行われていない。(茅ヶ崎駅北口、南口の案内サイン)



- デザイン的な統一がなされていない解説サイン(各種資源の解説サイン)



● 県、市など各種の設置主体が様々なサイン類を設置しているため、全体としては非常に分かりにくいものとなっている。(旧相模川橋脚の誘導サイン、解説サイン)



● 市内部の異なる部署がそれぞれに公共サインを設置しているために景観が損なわれている。関係部署間での協議・調整により公共サインの集約化を図ることも大切なポイントである。(堤坂下交差点の市民の森と民俗資料館の誘導サイン、解説サイン)



●高砂緑地はそれ自体が由来のある緑地として案内されているが、緑地内には、茅ヶ崎市美術館、松籟荘、茶室松籟庵、平塚らいてふの碑などの各施設も立地する。現状では、これらの施設の情報が個別的に設置されているため、全体として分かりにくい状況となっている。(高砂緑地エリアのサイン)



●絵文字やロゴマークは親しみやすさや分かりやすさを高める一助とはなるが、それだけで施設の存在を伝える機能を果たしているわけではないため、サインとしての対応には慎重さが求められる。(サザンビーチちがさきのマーク、サザンビーチのマーク)



●民間広告の林立が著しくまちの景観を乱している例もあり、盤面の大きさの統一を誘導するなど、集合広告に対する一定の対応が求められる。(民間広告)



●通り名称についても商店街などとの協力・連携により統一した表記とすることが求められる。(民間広告)



●開高健記念館などコミュニティバスの停留所がある地域資源もあり、連携が求められる。(コミュニティバスの路線図)



2-2 課題のまとめと対応の方向

(1) 公共サインとしての分かりやすさに係る事項

前節で指摘した、公共サインとしての分かりやすさに係る課題をまとめると、大きく以下の事項に集約して整理することができる。

●公共サインの整備不足

案内サイン(地図付き)は5箇所(茅ヶ崎駅周辺と香川駅前)に設置されている。案内サインを補完する集約型の誘導サインも茅ヶ崎駅北口デッキ上に数基整備されている程度であり、市民郵送調査、地域資源来訪者調査からも設置数の不足が指摘されている。

●公共サインによる案内のシステムが確立されていない

公共サイン案内のシステムが確立されておらず、個別の施設案内に拠っている。

●公共サインの表示に不適切なものが見られる

掲載位置、文字の大きさ、色使い、デザインの不統一など、公共サインとして分かりにくい表示が見られ、市民郵送調査からも、公共サインの分かりにくさが指摘されている。

●掲載情報の不統一

地図情報に掲載されている道路の名称については、愛称道路名称のものと正式道路名称のものが混在し、表示の不統一がある。

●様々な設置主体による公共サインの混在

各々の設置主体により様々な公共サインが設置され、全体として分かりにくくなっている。

これらの課題に対応するうえでの基本的な方向については以下の点が重要となる。

①体系的な公共サインシステムの構築

公共サインの設置数及びその配置手法の両側面において必ずしも十分ではない現状を踏まえると、設置数及びその配置手法について規定した体系的な公共サインシステムの構築とそれに基づく公共サインの整備が大きな課題と考えられる。

公共サインシステムの構築にあたっては、以下の3つの観点からそのあり方を検討する必要がある。

●何を案内するのか(案内施設・資源)を定める

公共サインで全ての公共施設、地域資源を案内することは不可能であり、過度な情報の提示は煩雑で分かりにくくなる。何を案内するのかを明確にすることが、分かりやすい公共サインシステム構築の基本となる。

これに関しては、実際の施設・資源の来訪状況や本市として政策的なねらいなどを総合的に判断した上で、広域で案内する施設・資源、エリアを絞った段階で案内する施設・資源といったように、段階に応じた案内施設・資源の整理を行うことが有効となる。

●どこから案内するのか（案内基点）を定める

案内情報については、前述の「何を案内するのか（案内施設・資源）」に関心がいきやすいが、体系的な公共サインシステムという面では、どこから案内するのか（案内基点）を明確にすることも極めて重要となる。

これについても、必ずしも一義的に定めるのではなく、場所の性格、訪れる人の多寡に応じて、段階的に設定することが有効となる。

●位置確認のための適切な情報のあり方

案内情報の基本は、前記の案内基点と案内施設・資源であり、来訪者は自分が今居る場所から目的とする場所に向かうことになる。しかし、実際の来訪行動を考えると、これらの基本情報に加え、そこに向かっていく途中での位置確認のための情報（このまま進んで目的地にたどり着けるか、間違っていないかを確認できる情報）が重要であり、これを適切に提示することが、より分かりやすい案内情報となる。

実際の目的地に向かう行動に照らして考えると、位置確認のための情報としては、点情報と線情報がある。

点情報については、交差点名称、地番などがこれに相当する。これらの情報をもとに、自分の現在地や曲がるべき地点などを確認することができる。

線情報については、通り名称などがこれに相当する。これらの情報をもとに、歩いている道が正しいのか、行き過ぎていないかといったことを確認することができる。

これらの位置確認のための情報が有効に機能するためには、案内基点と案内施設・資源を示す情報（案内地図など）と、点情報、線情報とがリンクしていることが必要であり、「○△通りを進んで、○○交差点で右折し、△本目の道を右に入る」といった情報が、案内地図で分かる必要がある。

②公共サインの表示に関するルールの確立

ここに示す公共サイン表示に関するルールは、公共サインシステムに基づいて整備される個別の公共サインが分かりやすくあるためのルールである。

使用書体、文字の大きさ、色使い、表示面の向き・掲出高さといった基本的な基準から、表示面と器具のデザインといった事項についてもルールを定めておくことで、分かりやすく、統一感のあるサイン整備を実現することにつながる。

前者の基本的な基準については、ユニバーサルデザインの考え方に基づいた基準や国等が定めている各種基準がある。また、多くの自治体が策定している公共サインに関するガイドライン等においてもほぼ共通のものが用いられており、これらを参考に定めることが有効となる。

後者については、良好な地域景観の形成に資するといった観点からも、シンプルで飽きのこないデザイン、維持管理が容易なデザインを考えることが重要となる。

また、このような公共サインの表示に関するルールを定めることは、既往の公共サインに見られる分かりにくさや、様々な設置主体によって公共サイン設置が行われていることによる公共サインの混在を改善する上でも有効に機能する。

実際の公共サイン整備が、体系的な公共サインシステムに基づき一挙に整備されるわけではないことを考えると、このような応急的な対応にも対処できるように、公共サイン表示に関するルールを確立しておくことの重要性は高い。

(2) 地域資源の回遊促進に係る事項

地域資源の回遊促進に係る課題をまとめると、以下のとおりに整理することができる。

- 公共サインの道しるべとしての利用度は低く、誘導サインの充実が求められている

地域資源の回遊において、実際に公共サインを道しるべとして利用している人の割合は低く、通り名称、交差点名称や住居表示街区案内図を道しるべとして利用している人が多い。

回遊促進のための方策としては「誘導サインの充実」がまず求められており、次いで、「地域資源の旬の情報」「周辺の地域資源の情報」といったプラスα的な方策に対する要望がある。

- マップとの連携が強く求められている

地域資源の回遊促進のための方策としては、「わかりやすいマップ」に対する要望が極めて強く、市内で配布されている各種マップ等（以下、「案内マップ」という。）との連携を念頭においた対応が必要となる。

これらの課題に対応するうえでの基本的な方向については以下の点が重要と考える。

①地域資源に対する案内・誘導サインの充実

地域資源に対する公共サイン整備の状況が不十分な現状を踏まえると、第一に地域資源に対する案内・誘導サインの充実が必要となる。

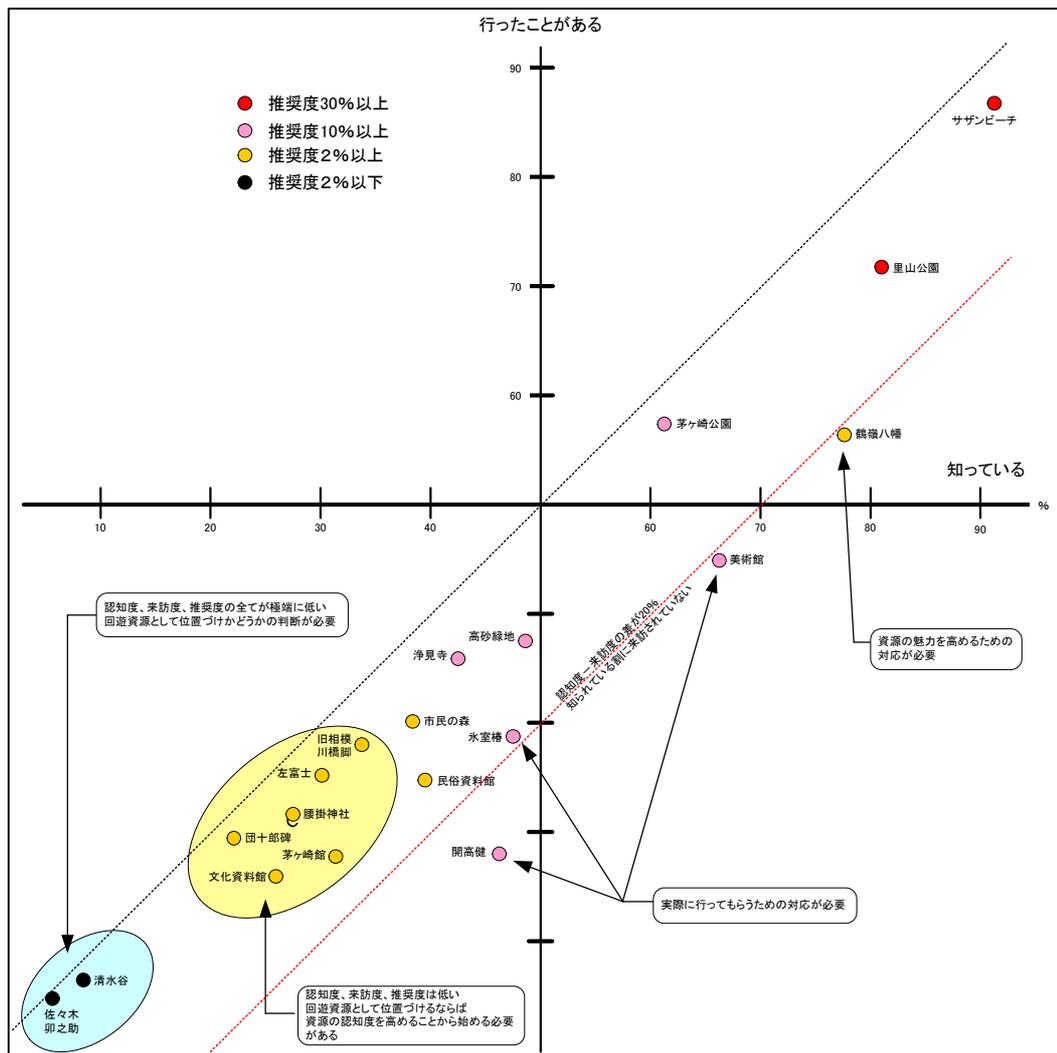
先に示した、「体系的な公共サインシステムの構築」、「公共サインの表示に関するルールの確立」は、地域資源の回遊促進のための案内・誘導サインの整備においても、その前提となる基本的な方針であり、これに基づいて、地域資源の何を案内・誘導するのかを明確にする必要がある。

地域資源については、個々の資源としての特徴が強く、何を案内・誘導するのかに対して、市としての判断が特に必要となる。

これに関しては、今回の地域資源来訪者アンケート調査から得られた調査結果（次頁図参照）が、一つの有効な判断材料になる。

この図からは、「認知度に対して来訪度の低い資源」「認知度、来訪度、推奨度の低い資源」といった、各地域資源の特性をみてとることができる。

「認知度に対して来訪度の低い資源」に相当する資源は、鶴嶺八幡宮、茅ヶ崎市美術館、氷室椿庭園、開高健記念館などであり、そのなかでも推奨度の高い、茅ヶ崎市美術館、氷室椿庭園、開高健記念館は、地域資源として積極的に案内・誘導を図る地域資源として対応を図ることが考えられる。これに対して、認知度、来訪度、推奨度の極端に低い資源である清水谷、佐々木卯之助の碑といった地域資源については、案内・誘導を図る地域資源としての対応を、今後どのように考えていくのかに対して慎重な判断が求められる。その中間に位置づけられる「認知度、来訪度、推奨度の低い資源」、旧相模川橋脚、南湖の左富士、腰掛神社、団十郎山の碑、茅ヶ崎館、文化資料館などについては、地域資源としての対応に関しては、案内・誘導サインの整備の以前に、資源の認知度を高めること（広報、市のホームページなどでの紹介など）から始めることが必要となる。



図表2-77 認知度・来訪度・推奨度の関係から見た地域資源の特徴

また、具体的な案内・誘導サインの充実のための方策としては、以下の対応が有効である。

● 通り名称サインの活用

地域資源の多くは、主要な道路沿いではなく、そこから中に入った市街地の中に点在するものが多い。このような立地の地域資源への来訪を考えると、主要道路から中に入るその地点に地域資源への誘導サインがあることが大切となる。

このような考えから、来訪者が利用するであろう通りの名称サインを整備すると同時にその通りから中に入る場所に、通り名称サインと併架させる形で地域資源への誘導サインを設けることが有効である。



● 住居表示街区案内図の活用

前述のとおり、地域資源の多くは市街地の中に点在している。このような立地特性を考えると、市街地の中に設けられている住居表示街区案内図や広域避

難場所案内図などの地図情報の中に、地域資源の位置を併せてプロットしておくことが、地域資源への案内・誘導として効果的である。

②マップとの連携の強化（参考）

公共サイン自体に係る事項ではないが、意識調査の結果からは、地域資源への回遊促進のための方策として「マップとの連携」が強く求められていることを踏まえると、分かりやすい案内マップの整備を別途進めるとともに、これらの案内マップとの連携を強化することも重要となる。

案内マップの整備にあたってのポイントとしては、地域資源の案内マップと公共サインシステムとの連携・整合を図ることが重要となる。具体的には、公共サインシステムに基づき整備を進める通り名称サインや総合案内サインの位置を案内マップ上にも掲載しておくことが重要となる。

- 各種の地域資源の案内マップの掲載情報を統一すること
- 案内マップを駅前や主要な来訪地点で入手できる体制づくりを進める

また、地域資源の来訪行動の実態調査の結果を踏まえると、コミュニティバスでの来訪も相当数あることから、このような来訪行動をより促進・誘発し、その利便性を向上させる意味から、コミュニティバスとの連携を図ることも有効と考える。具体的な方策としては、地域資源の案内マップに、来訪に際して利用できるコミュニティバスの路線・停留所の情報を掲載することや、最寄りの停留所に、地域資源の案内・誘導情報を提供することが有効となる。

(3) その他検討事項

①高砂緑地エリアの案内誘導の方法

実態調査から見た課題の一つとしてあげたように、高砂緑地および高砂緑地内の各種施設・資源の案内については、分かりやすい公共サインシステムの整備と併せて、案内のあり方自体を検討しておくことが必要と考える。

現状をみると、高砂緑地はそれ自体が由来のある緑地として案内されているが、高砂緑地内には、茅ヶ崎市美術館、松籟荘、松籟庵、平塚らいてふの碑などの各種の施設・資源も立地しており、これらの施設・資源の情報が個別的に設置されているため、全体として分かりにくい状況となっている。

基本的な対応の方向としては、以下の観点からの検討を進め、案内・誘導のあり方を考えることが必要と考える。

●「高砂緑地」としての一括表示と案内・誘導

- ・高砂緑地入り口部における高砂緑地地区の案内サインの設置
- ・高砂緑地入り口部における地区案内サインにおいて、高砂緑地内の松籟庵、茅ヶ崎市美術館、市立図書館、平塚らいてふの碑などの案内を行う。

②公共サインに係る庁内体制

本市における公共サインの設置状況をみると、庁内の様々な部署が、個別的に公共サインを設置している状況にある。

わかりやすい公共サイン整備、公共サインシステムの構築のためには、庁内の体制を整えることが重要であり、横断的な連絡体制など、公共サインに係る庁内体制のあり方についての検討が必要と考える。